

## ひまわり学級（病弱・身体虚弱学級）自立活動指導案

日 時：令和元年8月28日（水）2校時

場 所：ひまわり教室

指導者：教 諭 奥平 真由美

### 1 題材名 安全に楽しく過ごす工夫をしよう

### 2 題材について

#### (1) 児童の実態

1年A児（男児 エーラスダンロス症候群 個別検査については未検査）と6年B児（女児 心不全による心臓機能障害 知的障害）の2名の在籍である。

A児の障害の程度については、皮膚が脆弱であり、破れやすい。けがをすると完治するまで健常児より時間がかかる。衝撃から保護するため、赤白帽には緩衝材を、靴には厚手のインソールを入れている。体幹が弱く、バランスを崩して転びやすい。また疲れやすい。医師より特に制限されている運動はないが、連続して跳ぶ動きは控え、滑り台など高いところに上る際には見守りが必要である。

保護者の希望により、学校生活の大部分は交流学級で過ごしており、通常の進度で授業に参加している。連発性と伸長性の吃音が見られるが、その場や雰囲気合った言葉でやり取りをすることができる。

生活面では、交流学級・学年に安全面に配慮してもらいながら楽しく過ごしているが、徐々に学校生活に慣れ活発になってきており、最近では廊下の歩行や校舎内外の危険個所などについて注意が薄らいでいる様子もうかがえる。気になることがあると注意が逸れたりやるべきことを忘れたりすることもある。

また、体が友達と接触したりした時には、相手が故意でなくともぶつけられたと感じ、様子を尋ねると曖昧な説明であったりすることも見られ、周りの様子の理解や行動の仕方などについて今後も繰り返し指導が必要である。

B児については、新生児期から幼児期にかけて手術や入退院を繰り返し、入学と同時に病弱学級に入級した。今年8月の検査の結果、経過は順調であったが、医師より持久走や潜水、急な心拍の上昇を伴う短距離走のスタートなどについては、控えたり本人の体調に合わせて注意して参加したりするよう指示を受けている。

階段の上り下りなど日常生活においても疲れやすく、指先を細かく動かす活動や全身を協調して動かす運動などが苦手であるが、基本的な生活習慣はほぼ自立している。

発達や経験の程度については、聞いて覚えることが難しく、何度も同じことを聞いたり忘れたりしてしまいがちである。読み間違いやとばし読みが多く、構音ではサ行置換が見られる。

また、自分の体調や気持ちをうまく言い表すことが難しく、時折他者に代弁してもらいたい気持ちが見られる。一方では、自分の話したいことを話し終えると、相手の返事を待たずにすぐに違う話題を話し始めたりするなど、双方のやり取りが難しいことが多い。保護者とは、今後中学進学に向けて、生活に密着した力をつけていくことに重点を置き学習を進めていくことを確認している。

今年度は在籍が2名となり、B児が一人で教室を移動したり交流学習の授業に参加したりする機会が増えた。未経験の活動や苦手と思うこと、予定の変更などに対して不安や抵抗を示すことが多いが、予定の変更点や活動内容をメモしたり、写真などで調べたり、苦手と思う活動を回数多く練習したりすることを通して、活動に取り組もうとする気持ちが出てきている。また、1学年の教室と隣接していることから、朝の時間や給食時などに進んで1年生の世話をしたり、保健委員の常時活動を忘れずに行ったりするなど最上級生らしい活動が見られるようになってきている。

## (2) 題材観

児童の実態を踏まえ、A児については自立活動の区分の1健康の保持(3)(4)、3人間関係の形成(3)4環境の把握(4)を、B児については1健康の保持(2)(4)、2心理的な安定(1)(2)(3)、6コミュニケーション(1)(5)を受けて構成した。

自分の病気や身体各部の状態に合わせて、生活の自己管理ができたり、部位を適切に保護したりできるようにするには、場所や場面の状況を理解して、不安を軽減したり、自分の健康状態を自分の言葉で言い表したり、行動の仕方を身に付けることが大切である。

そこで、A児については、同じ場所でも、時間帯によって危険が異なることなどを理解させたり、周囲の人の動きに対して注意する力を高めたりすることにより、行動を調整し、自分の健康の理解や人間関係をよりよくできることを理解できるようにする。

B児については活動の見通しを持ち活動内容の練習や準備をしていくこと、自分の症状や気持ちを他者に伝えられるようにしていくことなどにより、気持ちを落ち着かせて活動に取り組むことができると考え本題材を設定した。

## (3) 指導観

指導に当たっては、児童の実態を考慮して以下に留意する。

- ・ 学習の流れを示し見通しを持って学習させる。
- ・ 具体的な学校生活の場面を想起させるための写真や動画を取り入れる。
- ・ 目標は個別であるので基本的には複式の学習であるが、児童の実態や状態に合わせて、個別に学習したり、一緒に考えさせたりする形態を取り入れ、ともに活動するよさや充足感を味わわせる。

## 3 題材の目標

1年 周りの様子や人の動きに注意して、けがをしないように気を付けることができるようにするとともに、自分がけがをしないことにより人間関係を良好に保つことにつながることを理解できる。

6年 未経験の活動や不安なことに対して進んで取り組めるようにする。

## 4 本時の学習

### (1) 本時の目標

1年 廊下の歩き方などで、けがをしないように気を付けることが分かる。

6年 市小体での様子が分かり、不安なことや分からないことがあったらどうすればよいか分かる。

### (2) 準備物

写真 動画 ペープサート コミュニケーションカード 自立課題の教材

### (3) 評価の観点

1年 けがをしないようにする工夫が言える。

6年 不安なことや分からないことがあったらどうしたらよいか分かり、練習できる。

### (4) 指導過程 別紙

### (5) 板書予定

学習の予定  
美さん  
プリント  
どうしていいかな  
おとさん  
はなちゃん  
プリント  
りかえり

小体連  
初めて  
8名15組  
他校の先生  
安全  
楽しく

けがをしないように  
こみくあいがちがう  
安全に楽しく過ごす  
工夫をしよう

いりぐち  
ろうか  
あつた  
はなちゃん  
おとさん  
はなちゃん  
おとさん  
はなちゃん

## (4) 指導過程

別紙

段階	学習活動 ◇指導上の留意点		評価(評価方法)・準備物
	1 年	6 年	
導入 5分	<p>1 始めの挨拶をする。 ◇担任に注目させる。</p> <p>2 本時の学習内容を知る。 ・けがをしないくふう・ひらがな ・ふりかえり ◇本時の学習内容を提示し、学習の見通しをもたせ意欲的に取り組めるようにする。</p>	<p>1 始めの挨拶をする。 ◇担任に注目させる。</p> <p>2 本時の学習内容を知る。 ・プリント ・どうしたらいいかな ・ふりかえり ◇本時の学習内容を提示し、学習の見通しをもたせ意欲的に取り組めるようにする。</p>	
展開 35分	<p>3 普段の生活を振り返り、けがの予防のためできることを考える。 (1) 1階廊下、昇降口、教室の出入り口の様子の写真を見て、気が付いたことや危なかったことを発表する。 ◇ 1日の生活時間を追って写真で提示し友達とぶつかりそうになったことなどを思い出させる。 (2) けがをしないように自分ができることを考える。 ・廊下ではいつも歩く。 ・出入り口では気を付ける。 ・混んでいたら待つ。 (3) 故意ではなく友達と体がぶつかったときなどにはどうしたらよいか考える。 ◇相手の状況がはっきり分からない場合もあることを押さえ、お互いに謝ったり落ち着いて話を聞いたりすることが大事であることを指導する。 ◇自分がけがをしないように気を付けることが友達との関係を良好に保つことにつながることを指導する。</p> <p>4 自立課題に取り組む (1) ひらがなの練習に取り組む。 ◇A児の学習の進み具合によってはB児の課題を一緒に考えてもよいことを伝える。 ◇A児の応援が必要な場合には協力してほしいことを伝える。 ◇可能な場合は役割演技の協力を頼む。</p>	<p>3 自立課題に取り組む (1) 読み方練習のプリントに自分で取り組む。 ◇手順を示し自分でできるようにする。 ◇B児の気持ちの状態によってはA児の課題と一緒に考えてもよいことを伝える。 ◇B児の応援が必要な場合には協力してほしいことを伝える。 ◇A児の学習の間自分で学習できたことをほめる。</p> <p>4 市小体への参加に当たって、分からないことや不安なことがあったらどうすればよいか考える。 (1) 小体連の動画を視聴する。 ◇全体の雰囲気や100Mの競技の流れを知る。 (2) 分からないことや不安なことがあったらどうすればよいか考える。 ◇思いつかない場合は、途中で体調が悪くなったらどうすればよいか投げかける。 ◇近くの先生に学校名と名前を告げ、体調が悪いことを伝える練習をする。 ◇これまでの行事での頑張りを思い出させ、市小体に向けての練習や準備への意欲を高める。</p>	<p>1階廊下、昇降口、教室出入り口の写真</p> <p>ペープサート</p> <p>&lt;1年評価&gt;</p> <p>DVD</p> <p>コミュニケーションカード</p> <p>&lt;6年評価&gt;</p>
まとめ 5分	<p>5 本時の学習を振り返る。 ◇お互いに自分の学習に一生懸命取り組めたことや一緒に考える協力ができたことなどをほめ、今後の生活への意欲を高める。</p> <p>8 終わりの挨拶をする。</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。 ◇お互いに自分の学習に一生懸命取り組めたことや一緒に考える協力ができたことなどをほめ、今後の生活への意欲を高める。</p> <p>6 終わりの挨拶をする。</p>	

自立活動の実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセス

学年	小学校 1 年
障害の種類・程度や状態等	病弱・エーラスダンロス症候群
事例の概要	周りの様子や人の動きに注意して、けがをしないように気を付けることができるようにするとともに、自分がけがをしないことにより人間関係を良好に保つことにつながることを理解できることを目指した指導事例

① 障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる調書やよさ，課題等について情報収集

- ・皮膚が脆弱であり，破れやすい。けがをすると感知するまで通常より時間がかかる。医師より特に制限されている運動はないが，連続して跳ぶ動きは控えるようにしている。体幹が弱く，バランスを崩して転びやすい。また疲れやすい。
- ・基本的な生活習慣はほぼ自立している。
- ・連発性と伸長性の吃音が見られるが，その場や雰囲気合った言葉でやり取りをすることができる。

②－1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚が脆弱であり，破れやすい。けがをすると感知するまで通常より時間がかかる。</li> <li>・基本的な生活習慣はほぼ自立している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になることがあるとやるときを忘れてたり，なかなか始めないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同学年や異学年の友達と仲よく触れ合うことができる。</li> <li>・自分の不注意でぶつかるなどしても相手にたたかれたと思うことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年相応の学習内容を学習している。</li> <li>・校内や通学路の危険を察して，自分でけがのないように気を付けて行動することについては十分とはいえない。</li> <li>・混雑を避けるなど行動を調整することはうまくできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体幹が弱く，バランスを崩して転びやすく疲れやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連発性と伸長性の吃音が見られる。</li> <li>・その場や雰囲気合った言葉でやり取りをすることができる。</li> <li>・自分の気持ちや困ったことを落ち着いて言い表すことができる。</li> <li>・連発性と伸長性の吃音が見られる。</li> </ul>

②－2 収集した情報(①)を学習上または生活上の困難や，これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・校内や通学路の危険を察して，自分でけがのないように気を付けて行動することについては十分とはいえない。
- ・気になることがあるとやるべきことを忘れてたり，なかなか始めないことがある。
- ・体幹が弱く，バランスを崩して転びやすく疲れやすい。

②－3 収集した情報(①)を〇〇の姿の観点から整理する段階

- ・2 学年へ進級する時期に向けて，同じ場所でも時間や状況によって危険度が変わることが理解することが必要。
- ・集中してやるべきことに取り組むことが必要。
- ・混雑を避けるなど行動を調整することはうまくできない。

③ ①をもとに②－1，②－2，②－3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・同じ場所でも時間や状況によって危険度が変わることが理解し混雑をさけたりして自分の行動を調整することが難しい。(健 人 環 )
- ・気になることがあると，やるべきことを忘れてたり取りかかりが遅くなりがちになる。(心 環 )

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ場所でも、時間帯によって危険が異なることなどを理解させることにより、危険度が分かり、自分でけがをしないように気を付けることができる考える。</li> <li>・けがをすることによって、友達との人間関係をよりよくできることを理解させることによって、周囲の様や人の動きに対して注意する力を高めたり、行動を調整する力を高めたりすることにつながる考える。</li> </ul>

課題同士の関係を整理する中で今日指すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階
	同じ場所でも、時間帯によって危険が異なることなどを理解させたり、周囲の様や人の動きに対して注意する力を高めたり、行動を調整する力を高めたりすることにより、自分の健康の理解や人間関係をよりよくできることを理解できるようにする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(3) 身体各部の状態の理解と養護(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整		(3) 自己の理解と行動の調整	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況について(の 把握)と状況に応じた行動		

⑦ 項目と項目を関連づける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt; 同じ場所でも時間や状況によって危険度が変わることを理解し混雑をさけたりして自分の行動を調整することができるようにするために&gt; (健) (3) と (人) (3) と (環) (4) を関連づけて配慮事項として設定した指導内容が⑧ (ア) である。</li> <li>・ &lt; 目的を忘れずやるべきことをやったり、取り掛かりに遅れないようにすることができるようにするために&gt; (健) (4) と (人) (3) と (環) (4) を関連づけて配慮事項として設定した指導内容が⑧ (イ) である。</li> </ul>

選定した項目を関連づけて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階	
	ア 同じ場所でも時間や状況によって危険度が変わることを理解し混雑をさけたりして自分の行動を調整することができる。	イ 気になることがあっても、目的を忘れずやるべきことをやったり、取り掛かりに遅れないようにすることができる。

自立活動の実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセス

学年	小学校 6 年
障害の種類・程度や状態等	病弱・心室中隔欠損症，心不全による心臓機能障害 知的障害・身辺自立はほぼできる。字を書くことは好きだが， 学習内容は小学 1 年程度，
事例の概要	未経験の活動や不安なことがあったらどうしたらよいか分かり， 進んで取り組めるようにすることを目指した指導事例

① 障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる調書やよさ，課題等について情報収集

- ・運動だけでなく階段の上り下りなど日常生活の動きにおいても疲れ安い。
- ・基本的な生活習慣はほぼ自立している。
- ・委員会活動の常時活動や好きな活動には友達と一緒に意欲的に取り組むことができる。
- ・幼児期の入院治療により，生活経験が乏しく，学校生活や学習での様々な活動に不安や抵抗を感じるが多い。特に新しいことや急な変更には気持ちが沈みがちである。
- ・同年齢の友達と一緒に活動したい気持ちがあるが，未経験のことがらや苦手な学習内容があると避けようとしがちである。
- ・聞いて覚えることが難しく，同じことを何度も聞くことが多い。
- ・一方的に自分の話したいことを話したり自分の聞きたいことを聞くとすぐに話題を変えるなど話の受け答えがうまくできないことが多い。自分の体調や気持ちや考えをうまく言い表すことが難しく他者に代弁してもらいたい気持ちが強い。
- ・サ行の撥音が不明瞭である。
- ・指先を細かく動かす活動や前進を強調して動かす運動が苦手である。
- ・文章をとばして読んだり，読み間違えたりすることが多い。

②－1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の動きにおいても疲れ安い。</li> <li>・基本的な生活習慣はほぼ自立している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活経験が乏しく，学校生活や学習での様々な活動に不安や抵抗を感じるが多い。特に新しいことや急な変更には気持ちが沈みがちである。</li> <li>・未経験のことがらや苦手な学習内容があると避けようとしがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同年齢の友達と一緒に活動したい気持ちがある。</li> <li>・委員会活動の常時活動や好きな活動には友達と一緒に意欲的に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章をとばして読んだり，読み間違えたりすることが多い。</li> <li>・学年を下げた繰り返し学習すると定着が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を支持したり伸ばしたりする動作には抵抗があり，ぎこちなさや不器用さが見られる。</li> <li>・階段の上り下りでは手すりを使っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いて覚えることが難しく，同じことを何度も聞くことが多い。</li> <li>・一方的に自分の話したいことを話したり自分の聞きたいことを聞くとすぐに話題を変えるなど話の受け答えがうまくできないことが多い。</li> <li>・疲れたときや困ったとき，苦手と思うことがあるとうまく言い表すことが難しく他者に代弁してもらいたい気持ちが強い。</li> <li>・サ行の撥音が不明瞭である。</li> </ul>

②－2 収集した情報(①)を学習上または生活上の困難や，これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・未経験のことがらや苦手な学習内容があると避けようとしがちである。活動に不安や抵抗を感じるが多い。特に新しいことや急な変更には気持ちが沈みがちである。
- ・話の受け答えがうまくできないことが多い。自分の気持ちや考えはうまく言い表すことが難しく他者に代弁してもらいたい気持ちが強い
- ・書くことは好きだが内容の理解は難しい。読み間違えやとばし読み勝手読みが多い。数の構成の理解が難しい。

②－3 収集した情報(①)を〇〇の姿の観点から整理する段階

- ・中学に進学し，一斉授業や部活動に参加するために，課題と受け止め取り組もうとすることが必要。
- ・自分の体調や気持ちを伝えたり，相手とやりとりするコミュニケーション手段を獲得し，良好な人間関係を構築することが必要。
- ・不安に思うことや苦手と思うことに対して，自分で聞いたり調べたり練習したりして気持ちを落ち着かせ取り組むことが必要。

③ ①をもとに②－1，②－2，②－3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・未経験のことがらや苦手な学習内容があると避けようとしがちである。(心 人 環 身)
- ・円滑なコミュニケーションを成立させることが難しい。(心 人 環 コ)
- ・音読に苦手意識がある。(心 人 環 )

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しが持てるようにしていくことや活動内容の練習や準備をしていくことにより、今後の予定が分かり、不安を解消して活動に参加できると考える。情緒の安定と他者からの指導や助言を受け入れられる人間関係を形成する必要がある。</li> <li>・円滑なコミュニケーションを成立させることにより、情緒の安定が図られ、不安を取り除いて活動に参加できるようになると考える。</li> <li>・できることを増やしたり他者のために役立っていることを実感させることを通して、進んで活動に参加する態度や自己有用感や自己肯定感を高めることにつながると思える</li> </ul>

課題同士の関係を整理する中で今日指すべき目標として	⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階
	自己有用感や自己肯定感を高めることにより、体調・感情等の自己管理能力やコミュニケーション能力及び自分なりの学習方法を身に付け、前向きな気持ちを育み、活動に進んで参加できるようにする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (4) 集団への参加の基礎			(1) コミュニケーションの基礎的能力 (5) 状況に応じたコミュニケーション

⑦ 項目と項目を関連づける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・＜見通しを持ち不安を取り除いて活動に参加することができるために＞（心）（１）（２）（３）と（人）（１）を関連づけて配慮事項として設定した指導内容が、⑧ア、イである。</li> <li>・＜円滑なコミュニケーションを成立させるために＞（健）（２）（４）と（人）（２），（コ）（１）（５）を関連づけて配慮事項として設定した指導内容が、⑧イである。</li> <li>・＜自己有用感や自己肯定感を高めるために＞（人）（４）を関連づけて配慮事項として設定した指導内容が、⑧ウである。</li> </ul>

選定した項目を関連づけて具体的な指導内容を設定	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階		
	ア見通しを持ち不安を取り除いて活動に参加することができる。	イ具体的な対応の仕方をロールプレイで練習し、自分の体調を伝えたり、相手の話を受けてやりとりするなどの、好ましい対応の仕方を身に付け、周りにいる人の気持ちに気付くことができる。	ウ自分の頑張ったことや分かったことを進んで発表することができる。